



RESEARCH CENTER FOR THE FUTURE CITY DESIGN
CORRESPONDING TO GLOBAL ENVIRONMENT PROBLEMS
RESEARCH GROUP FOR THE FUTURE CITY DESIGN
CORRESPONDING TO GLOBAL ENVIRONMENT PROBLEMS
<http://future-cities.ynu.ac.jp>

// 第2回地球環境未来都市シンポジウム(活動報告とパネルディスカッション) //

地球環境未来都市(横浜・都留)へ向け～ICTプラットフォームを活用して～

都市をリ・デザインする

2013年6月15日(土) | 13:00 → 17:00 | 参加無料

横浜国立大学教育文化ホール

主催 地球環境未来都市研究会 横浜国立大学 地球環境未来都市研究会会員 横浜市温暖化対策統括本部 都留市 独立行政法人海洋研究開発機構アプリケーションラボ 横浜国立大学地域実践教育研究センター 東
京大学登坂博行研究室 株式会社日立製作所 情報・通信システム社 大成建設株式会社技術センター 東京ガス株式会社エネルギー企画部 ESRIジャパン株式会社 後援 神奈川県 横浜市 環境工学秦野協働研究会

// 第2回地球環境未来都市シンポジウム //

地球環境未来都市(横浜・都留)へ向け ～ICTプラットフォームを活用して～ 都市をリ・デザインする

2013年6月15日(土)13:00 → 17:00
横浜国立大学教育文化ホール

参加無料	会場準備の都合がございますので、あらかじめお名前・ご所属をご登録ください。
登録・お問い合わせ先	横浜国立大学佐土原研究室 担当・尾田
電話	045-339-4247
ファックス	045-338-1016
メール	n-oda@ynu.ac.jp

// 目的 //

2012年7月25日に設立された地球環境未来都市研究会は準備の初年度を終え、本格的な活動を開始する2年目に入りました。研究会のメンバーゲットを明確にし、組織を拡充しつつそれを共有すべき段階にあるといえます。つきましては、標記シンポジウムを開催し、その促進を図り、一層の拡充発展を図るものです。



地球環境未来都市研究会設立記念シンポジウム(地球環境未来都市をデザインする)
2012年7月25日@ 横浜開港記念会館講堂

// 開催趣旨 //

21世紀、人類の最大の課題はその生存持続可能性のために、地球環境をいかに管理していくかである。71億人を超え人口は依然として増え続け、それらの多くが都市に居住する。その都市活動こそが最大の地球環境影響要因、都市こそがその最大駆動域であり、都市での緩和策が求められる。一方で地球環境問題の影響を受ける人々が最も多く居住しているのも都市域であり適応策が求められる。地球環境問題の緩和・適応策の中心の場は都市である。特に、多くの人口が集中する巨大都市での緩和・適応策は必須であり、世界最大のメガシティ東京首都圏にこそそれらが強く求められる。とりわけ、東京首都圏の南西域は東海道を軸に京浜工業地帯を形成し日本の近代工業化の先駆けとなり、世界のフロントエリアともいえる。それが今、文明的な国際社会経済の転換期にあたり、脱工業化と人口減少超高齢化が進む中、新たな地球環境対応型の都市へのリ・デザインが求められている。今回はこの富士山に始まる相模川・酒匂川の水流域から東京湾沿岸都心工業域までの人工流路で結ばれた水の共同利用圏域である神奈川拡大流域圏を形成する東京首都圏西南域を対象に、地球環境未来都市へ向けて都市をいかにリ・デザインしていくかを検討する。一方で我々はそのリ・デザインツールとしての最先進の情報通信技術を結集したICTプラットフォームの構築を図っている。それを駆使し、世界のトップランナーとして、新たな文明の舞台となる地球環境メガシティの未来をデザインし、横浜・神奈川でそれを先駆的に実現していくことを目指す。本シンポジウムではそのプロセスを具体的に検討する。

// プログラム //

活動報告 | 15分×4

イントロダクション | 秦野市での始まり

研究会長 佐土原聡(横浜国立大学地域実践教育研究センター長/都市イノベーション研究院教授)

ファースト・ステージ | 都留市でのモデル展開

都留地域部会長 奈良泰史(都留市総務部長)

セカンド・ステージ | 横浜市での本格展開

横浜地域部会長 信時正人(横浜市環境未来都市推進担当理事)

中国の事例紹介

劉学敏(北京師範大学資源学院副院長・教授)・李強(同教授)

パネルディスカッション | コーディネーター: 佐土原聡

Part I 都市を支えるディープデータ | 10分×4 + ディスカッション 20分

- ①地圏研究会会長 笹田政克(NPO法人地中熱利用促進協会会長)
- ②地圏研究部会 遠藤邦彦(第四紀学会会長/日本大学名誉教授)
- ③生物圏研究会会長 川瀬博(神奈川大学特任教授)
- ④生物圏研究部会 大野啓一(元横浜国立大学教授)

Part II イノベーションを促すICTプラットフォーム | 10分×4 + ディスカッション 20分

- ①シミュレーション研究会会長 登坂博行(東京大学大学院工学系研究科教授)
- ②シミュレーション研究部会 高橋桂子(独立行政法人海洋研究開発機構アプリケーションラボラボラヘッド代理)
- ③ICTプラットフォーム研究会会長 小泉亨(日立製作所情報・通信システム社環境推進本部部長)
- ④ICTプラットフォーム研究部会 矢口浩平(ESRI ジャパン株式会社 ソリューション営業グループ)

Part III 都市をリ・デザインする | 10分×3 + ディスカッション 15分

- ①社会システムデザイン研究会会長 長谷部勇一(横浜国立大学情報基盤センター長/国際社会科学研究院教授)
- ②都市デザイン研究会会長 北山恒(横浜国立大学都市イノベーション研究院教授)
- ③エネルギーデザイン研究会会長 佐土原聡(前出)

// 地球環境未来都市研究会とは //

本研究会は地球環境問題に対応した未来都市を、産学官連携のもとに研究することを目的に産学官9組織によって結成されました。東京首都圏の南西部を形成する富士山から東京湾までの「神奈川拡大流域圏」を共有のフィールドとして、地圏・水圏・大気圏・生物圏・人間圏の科学的知見(ディープ・データ)を基にして、多様かつ大量のビッグ・データやシミュレーション結果も格納処理できる、次世代対応の統合ICTプラットフォームを構築し活用することで、地球環境未来都市をデザインしていくことを目的としています。現在は本格的な研究のための準備と会員拡充の段階で、各圏研究のための研究部会と実践的地域研究のための地域部会を立ち上げ、活動を開始しております。横浜国立大学の地域実践研究センターが事務局ですが、多分野多組織横断の産学官連携体です。

<http://future-cities.ynu.ac.jp>